

自立活動 学習指導案

1. 単元名「相手の考えを聞こう」

教材名（ボッチャビンゴ）

2. 単元の目標

- ・ゲームのルールや活動の手順を理解し、それらを守ることができる。
- ・場面に応じて、自分の意見を言ったり他の人の意見を聞いたりすることができる。

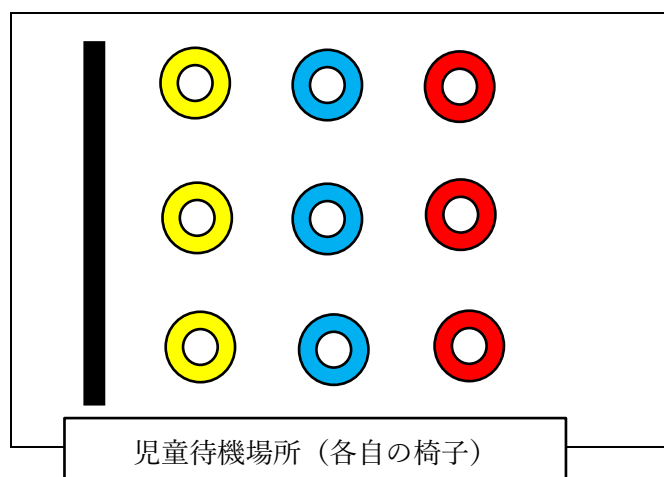
3. 単元について

（1）単元観

本単元では「協力する」ということを各グループで指導します。協力というのは便利な言葉で、その場に応じて様々な意味をもちます。しかし、そういったこと（暗黙の了解のようなもの）が理解しにくい児童が教室を利用しているわけなので、協力とは何を言い表すのかを具体的に指導することが必要だと考えています。本単元で「協力する」というのは、①参加者一人一人がゲームのルールを守ること、②ゲームを進めるために自分の考えを言うこと、③他の人の意見を聞くこと、の3つとします。1年生でも6年生でも、今後のグループ学習に参加する上でルールを守ることや児童同士で意見を言い合うことは大切なことだと考えるので、年度の始めの頃にそれらのことについての素地を養いたいです。

（2）教材観

「ボッチャビンゴ」は、パラリンピック種目のボッチャで使用する球を使ってビンゴを作る活動です。正式な種目や本などで紹介された活動でなく、前任の特別支援教室で行っていた活動です。9つのケンステップを3つずつ3列に並べ、その中にボールが止まるように投げたり転がしたりしてビンゴを目指します。参加児童の人数に応じてT1やT2もチームの一員として活動に参加します。実施するグループの実態に応じて、単にビンゴのできた数を記録にしたり、ビンゴのでき方によって得点をつけたりします。



ルール

- ・黒線からはみ出さないように投げる。
- ・下投げまたは転がす。
- ・投げる人以外は自分の席で待つ。
- ・人が投げる時には静かにする。

準備

- ・ケンステップの場所はグループの実態に合わせて場所を決める。
- ※黒線から黄色まで60cm、ケンステップ同士は30cm間隔で置く場合が多い。

単元の目標である①ルールを守る、②自分の意見を言う、③他の人の意見を聞く、を達成するために、次のような工夫を考えました。

①ルールが守りやすくなるように

簡単なルール、少ないルールを心掛けて活動の内容を決めました。基本的なルールは、線から足がはみ出さないように投げる、他の人の番の時には自分の席で待つ、の2つです。ボールを投げた時や自分の番を待っている時に、「ルールが守れていますね。」と、どの児童にも声をかけ、グループの中でルールを守って活動することの心地よさ（そういう雰囲気）を作れたらと考えています。ただ、待つことが苦手な児童もいますので、そういった児童のために役割分担のルールも考えました。具体的には、ボールを投げる人を「プレーヤー」と呼び、待つ人を「サポーター」と呼ぶことにします。「プレーヤー」の役割は①どこを狙って投げるかを言う、②サポーターに意見を聞く、③狙いを宣言して球を投げる、の3つです。「サポーター」の役割は①プレーヤーにアドバイスをする、②（プレーヤーが集中できるように）自分の席で静かに待つ、の2つです。「サポーター」としての役割を与えることで、自分ならどうするかを考えたり、仲間のために静かに待てたりすると思われました。

②自分の意見がいいやすいように

自分の意見を言いなれている児童もそうでない児童もいます。どのように言ったらいいか考えるのに時間がかかる児童もいます。なので、まずは話型を示して、それに沿った発言に慣れさせることにしました。具体的には、「〇〇を狙います。どうですか。」と、自分番になったらどこを狙うかを宣言させます。ゲームの目的は縦横斜めのいずれかに3個の球を並べることなので、「最初だから真ん中を狙います。」とか「リーチになるように右の黄色を狙います。」など、自分の意見を持ちやすく発言しやすいと思われました。理由を付け足しながらの発言も引き出しやすいと思います。

③他の人の意見を聞くことに慣れるように

自分が中心になって会話を進めるのに慣れていない児童もいます。自分の考えを否定される（自分と違う意見を言われる）ことに抵抗がある児童もいます。なので、まずは「どうですか？」と相手に尋ねる練習を話型の中に取り入れました。（2）にも書きましたが、ゲームの目的は明確なので、投げる人の意見と見ている仲間の意見とが食い違うことはあまりありません。自分の意見が肯定される経験をどの児童にも与えられるのではないかと考えました。

ただ、自分の意見を強くもっていたり、自分の意見に従わせようとしたりする児童もいるので、「サポーター」の児童にも話型を示すことにしました。具体的には、「いいと思います。/私なら〇〇を狙います。」のどちらかの言い方だけをさせます。プレーヤーと考えが違った場合でも、自分ならどうするかを言わせるだけにして、相手に強要させないように指導します。こうすることで、「プレーヤー」の時にどの児童も安心して相手の意見を聞けるようになると思われました。

4. 本時の展開（全4時間中の第3時）

（1）本時のねらい

- ・ルールを守ってゲームに参加できる。
- ・話型に沿って、自分の意見を言ったり仲間の意見を聞いたりすることができる。

（2）本時の展開

時間	○学習活動・学習内容	☆指導上の留意点、配慮事項	◇評価規準 (評価方法)
導入 2分	○あいさつ・予定の確認 ・姿勢を整えて始業の挨拶をし、 本時の活動の予定やめあてを知る。	☆活動の予定などは板書するなど視覚的に示し、児童に本時の学習の見通しをもたせる。 ☆グループの実態に応じて、予定の確認の前に連絡帳を書かせる。 (日付・名前・時間割)	
展開 38分	○ポッチャビンゴ (1) ルールの確認と準備 ・教員の説明を聞き、ゲームのルールと具体的な進め方を知る。 ※ビンゴの数でなく、合計点を記録。 チームで高得点を目指す。 ・ボールを投げる順番を決める。 (2) ゲーム ・ゲームの進め方に従って、意見を言い合ったり、ボールを投げたりする。 ・ボールを12個(赤青6個ずつ)投げ終わったら、できたビンゴの数と得点を数え、合計点を記録する。 ※時間があれば2回戦目 (3) 片付け ・教員の指示に従ってゲームに使った道具を片付ける。また、振り返りができるように机や椅子を整える。	☆ボールの投げ方はT1がお手本をする。ゲーム中の意見交換の仕方は話型を板書して示す。 ☆得点表を板書し、ボールの揃え方によって得点が変わることを確認する。 ☆説明後に質問の時間を設ける。 ☆T1は審判を兼ね、投げ方に誤りがあれば投げ直させる。また、どの児童も話型の通りに発言できるように、その都度、指導する。 ☆自分や他人の失敗が受容できない児童には、担当教員が個別に気持ちの調整について指導する。 ☆率先して行動している児童を褒め、価値付ける。 ☆ボールの取り合いなどが予想されるグループは、個別に具体的に片付けの指示をする。	◇順番を守って、球を投げたり自席で待ったりすることができる。 (行動) ◇活動の中で、自分の考えを言ったり仲間の意見を聞いたりすることができる。 (発言)
終末 5分	○振り返り ・本時の授業を振り返り、めあてが達成できたかと、活動の感想を発表する。	☆発表した児童に対して、T1がその児童の良かった場面を具体的に紹介し褒める。	

(3) 板書計画

今日の予定 1. ボッチャビンゴ 2. ふりかえり めあて ・自分の考えを言う。 ・相手の考えを聞く。	得点 横ビンゴ 黄色…1点 青色…2点 赤色…3点 縦ビンゴと斜めビンゴ どこでも2点	ルール ・ボールは下投げか転がす。 マナー ・「あ・よ・し・か・お」 (相手を見る・よい姿勢・静かに 考えながら・終わりまで)
--	--	--

(4) 準備・教材等

※第1時と同様